

まちづくり交付金 フォローアップ報告書  
二見・亀ヶ池周辺地区

平成22年7月

愛媛県伊方町

# 1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
指標1	老人医療費 1人あたりの費用	万円	63	53	62	確定 見込み ●	△	あり なし ●	83	H22年7月	×	目標設定に無理があったと考えられる。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	アンケート調査では、関節痛が治まった等の意見があったが、医療費を減少させるまでには至らなかった。今後、保健事業の充実を図る。
指標2	国民健康保険医療費 1人あたりの費用	万円	20	18	27	確定 見込み ●	×	あり なし ●	30	H22年7月	×	目標設定に無理があったと考えられる。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	上記と同様。
指標3	観光入込客数	万人	11	20	8	確定 見込み ●	×	あり なし ●	10	H22年3月	△	ー <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	評価値は低い数値を見込んでいたが、温泉施設整備等による相乗効果により減少傾向にあった数値の抑制が図れた。
指標4	小売業年間販売額	億円	15	18	15	確定 見込み ●	△	あり なし ●		H26年3月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	H26.3の統計結果により、確定値を求める。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性	
その他の数値指標1	亀ヶ池温泉への入館者数	人	170,023	193,000	193,000	確定 見込み ●	△	あり なし ●	191,941	H22年7月		外的要因により、減少となった。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	高速道路無料化等の社会情勢の変化による数値の変動と思われるが、確定値は従前値よりも入館者が2万1千人の増となっていると共に評価値とも近似値となっているため、今後も、施設のPRや新たなサービスの提供等を推進し、入館者数の安定化を目指す。
その他の数値指標2	交流物産館における販売額	千円	37,962	45,000	45,000	確定 見込み ●	△	あり なし ●	41,805	H22年7月		外的要因により、減少となった。 <input checked="" type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	入館者数が減少したためと思われる。上記の施策を推進し、販売額の安定を図る。
その他の数値指標3	フェリー利用者数	人	185,110	233,000	233,000	確定 見込み ●	△	あり なし ●	220,315	H22年2月		外的要因により、減少となった。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	従前に比べると増加しているが、増加傾向を維持するために、国道九四フェリーと協力しPR等を強化し、上陸者を増やすことで活性化を図る。
その他の数値指標4	亀ヶ池温泉利用者に対するアンケート実施	%	62	80	80	確定 見込み ●	△	あり なし ●	ー	H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	H16年度に実施したアンケート結果と比較して満足度が高い結果となったので、今後もサービスの向上に努め、入館者の安定化を目指す。

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

## 2. 今後のまちづくり方策の検証

### 様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>成果を持続させるために行う方策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>温泉施設における魅力的かつ地域の特色を活かしたサービスの向上を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>入館者数の節目(10万人毎)における記念イベントの開催</li> <li>利用者意見箱に寄せられたサービスの提供(送迎バスの配備、施設改善ほか)</li> <li>温泉の特性や効能を示すPRプロジェクトの設置(館内正面ロビー)</li> <li>松山市内バスへの車体広告 など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>左記のPR事業及びサービスの改善により、安定した集客が持続できている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も継続、反復したPR事業の展開とサービスの向上に取り組む必要がある。また、評価委員会で提言を受けた佐田岬ツーリズム協会との連携(体験旅行商品への温泉の組み込み)を図り、集客力をアップする必要がある。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>改善策</li> <li>まちづくりの目標を達成するための改善策</li> <li>残された課題・新たな課題への対応策</li> <li>その他 必要な改善策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>周辺類似施設(きらら館等)の観光客数を浮揚させるため、温泉施設内の交流物産館と各施設が商品の品揃えやサービスの面で特長をつくりだすことが必要。</li> <li>各施設でのPRの強化が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国道197号沿いの道の駅「きらら館」ではきららまつり、「亀ヶ池温泉」ではゲートボール大会を開催した。ゲートボール大会では、参加賞として入浴券を配布しPRの推進を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きららまつりを土曜日に開催したにも関わらず、大勢の観光客で賑わいを見せた。ゲートボール大会では、参加賞として配布された入浴券で入浴された方も多く新たな客層の確保につなげることができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>きららまつりでは、北海道泊村も参加していることから広くPRできるチャンスと捉えパンフレット等を活用し積極的にPRを推進する。</li> <li>亀ヶ池温泉を都市との交流の場としてさらに高めていくために、新たなサービスの検討が必要。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>各施設でのPRの強化が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在、西の玄関口として多くの利用がある国道九四フェリー発着場周辺には町の観光施設はなく、佐田岬ツーリズム協会で特産品販売所を国道九四フェリー発着場の隣地に仮設し販売をH22.8.4よりスタートさせ、PRの強化を図った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタートして間もないため、効果を把握することは出来ないが、多くの観光客の往来がある場所で販売PRを行うことは、今後計画を策定する上で参考となりうる数値の把握が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな販売メニューの掘り起こしを行い、各施設との違った特色を活かした施設の整備を計画する必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療費の軽減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価委員会で提案された、健康相談等の専門スタッフの配置について、具体的な検討を行う。また、配食サービスをH22.8.3(月、水、金)よりスタートさせ、高齢者へ栄養のバランスのとれた食事の提供及び健康相談を実施することにより健康維持を図</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康相談については、検討中であるが、配食サービスは実施中である。本サービスについては、今後、健康維持の効果が期待できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康相談員については、町のスタッフ又は施設に専属で配置するのか検討を行う必要がある。</li> </ul>

事後評価シート 添付様式5-③から転記

### 様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項

# 都市再生整備計画(第3回変更)

ふたみ かめ いけしゅうへん ちく  
二見・亀ヶ池周辺地区

愛媛県 伊方町

平成22年3月

・様式は、A4長辺側を、2箇所ホチキス留めすること。

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛媛県	市町村名	伊方町	地区名	二見・亀ヶ池周辺地区	面積	118 ha
計画期間	平成 16 年度	～	平成 21 年度	交付期間	平成 17 年度	～	平成 21 年度

<b>目標</b>
<p>大目標: 町民の健康増進と交流、観光、定住を促進する温泉を活かしたまちづくり          目標1: 温泉温浴施設を整備し、ふれあい・交流・保養拠点を創造するとともに、町民の健康増進を図る。</p>

<b>目標設定の根拠</b>
<p>まちづくりの経緯及び現況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊方町は、四国の西端「佐田岬半島」の付け根あたりに位置し、面積94.34km<sup>2</sup>、人口12,963人(11月末現在)の小さな町である。主幹産業は、柑橘栽培を主とした農業と小型底びき網漁などの漁業であるが、原子力発電所が設置されていることから、関連事業所等の従事者も多い。</li> <li>・平成17年4月1日、西宇和郡内の三崎町、瀬戸町との3町で合併し、新「伊方町」が発足した。</li> <li>・本町大字二見地区には、「畳8枚分の大ガニが棲む」という伝説をもつ、池面積7.7ha、周囲1.8kmの愛媛県内最大の潟湖(せきこ)「亀ヶ池」がある。しかしながら、環境整備がなされていないことから、この珍しく貴重な観光資源を活かされていないのが現状である。</li> <li>・この地区から宇和海を臨む田之浦漁港及び亀ヶ池周辺は、平成8年3月、水産庁の新マリノバージョン拠点交流地区に認定。平成8年度から10年間の計画で「ふれあい漁港整備」が実施されており、佐田岬半島の豊かな自然や美しい景観を活かした農村漁村と都市との交流促進を図るため、各種施設整備が進められてきた。</li> <li>・また、亀ヶ池のほとりは、県営中山間総合整備事業により、生態系保全を考慮した親水公園が整備される予定であり、憩い、交流、体験の場が形成される。</li> <li>・「伊方亀ヶ池温泉」は、昨年11月に掘削を終え、泉温46.3℃、湧出量173ℓ/分(動力ポンプ使用)と、県内でも有数の良質温泉が湧出し、1日でも早い温泉温浴施設の完成が待ち望まれている。</li> <li>・この地区及び周辺地域は、美しい自然に囲まれ、景観も素晴らしいので、温泉温浴施設とマッチさせ、観光客を誘導し、集客効果を上げたい。</li> </ul>

<b>課題</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・本町においても、過疎化並びに少子高齢化が進むなか、基幹産業である農業・漁業の活性化が急務であり、生産基盤整備の強化はもとより、付加価値の高い商品開発や流通体制の整備を進める必要がある。さらに、生活の安定化、経済活力の確保のためには、恵まれた観光資源を有効活用し、若者の定住、都市住民との交流、地場産品・観光PRなどを促し、地域の活性化を図ることが最大かつ喫緊の課題である。</li> <li>・町全体人口の約30%を65歳以上の高齢者が占めており、老人保健事業医療費も年々増加傾向にある。健康的で豊かな老後を過ごすために、寝たきりなどとならないよう健康増進を図り、併せて、医療費の削減に努める必要がある。</li> <li>・伊方町の年間入込客数は約11万人であり、ほとんどは原子力発電関連施設の見学者等である。佐田岬半島の観光資源を活かし、「温泉」とリンクさせ、この効果により、観光客を大幅に増加させ、地域振興の核に育てる必要がある。</li> <li>・交通面では国道のみが広域交通手段であり、県道、町道の生活道路整備が不十分のため、町民や観光客のアクセス性が十分ではない。生活空間の利便性を高め、観光拠点施設へのアクセスを向上させるため、抜本的な交通環境の強化が必要である。</li> </ul>

<b>将来ビジョン(中長期)</b>
<p><b>豊かな自然と温泉を活かし、住民の健康増進と交流を図るとともに、佐田岬半島の観光拠点として整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新マリノバージョン拠点交流促進総合整備計画(平成8年3月愛媛県)では、都市と漁村との交流促進と地域活性化を図るため、自然を体感し、海洋性レクリエーションを体験する総合的な基地として位置づけられている。</li> <li>・伊方町観光振興計画においては、農村公園(親水公園)との連携を図り、観光拠点として整備し、マリンレクリエーションゾーンとして位置づけられている。</li> <li>・新町建設計画(伊方町・瀬戸町・三崎町)においては、佐田岬半島の魅力を引き出す観光・交流資源の拡充を図るため、新たな観光・交流拠点としての整備が位置づけられている。</li> </ul>

<b>目標を定量化する指標</b>							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値		
					基準年度	目標年度	
1.老人医療費 1人あたりの費用	万円	町老人医療費の年間費用額を受給者数で除した費用額	高齢者の温泉の効用による療養・治癒及び健康増進効果を計る指標とする。目標値は、約10年前の数値に近い。	63	平成14年度	平成21年度	
2.国民健康保険医療費 1人あたりの費用	万円	町国民健康保険医療費の年間費用額を受給者数で除した費用額	町民の温泉の効用による療養・治癒及び健康増進効果を計る指標とする。目標値は、1割減の数値。	20	平成14年度	平成21年度	
3.観光入込客数	万人	当町における観光入込客数	観光物産センターきらら館と四電ビジターズハウスの来館者から算出。目標値は、ほぼ倍増の数値。	11	平成15年度	平成21年度	
4.小売業年間販売額	億円	商業統計調査を基にした小売業者の年間販売額	観光客の増加により、町特産品などの消費拡大を図る。目標値は、2割増の数値。	15	平成14年度	平成21年度	

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(ふれあい・交流・保養拠点の創造)</p> <p>・町民のふれあい、交流、保養拠点を創造・形成するために、健康温泉施設やふれあい交流物産館並びに親水公園(県事業)等の整備を行うとともに、一体となった周辺整備を行う。</p> <p>・温泉温泉施設への来客者のアクセスと亀ヶ池周辺道路の機能拡充のために、町道42号線の拡幅改修及び町道亀ヶ池線の改良、町道加周古屋敷線の改良、町道大成鳥津線の改良等を行う。あわせて、交通安全性の向上を図る。</p>	<p>温泉温泉施設整備(提案事業/温泉施設、物産館)、地域生活基盤整備(基幹事業/公園、道路、緑地、緑化施設、情報板・サイン整備)、ふれあい公園整備(関連事業/県営中山間総合整備事業・親水公園)</p>
<p>整備方針2(観光客の誘導)</p> <p>・佐田岬半島の観光客の立ち寄り拠点を形成するために、「亀ヶ池」を観光の骨格として位置づけ、温泉温泉施設、ふれあい交流物産館、親水公園(県事業)を1日滞在型の観光拠点施設として整備し、観光バス等の誘導・待機等の場としても十分な駐車場を確保する。</p> <p>・観光客誘導の玄関口を形成するために、道路の整備改善により滞留や憩いの空間づくりを行う。</p> <p>・観光客の誘導及び町民との交流のために、町民によるもてなしイベント等を実施する。</p>	<p>温泉温泉施設整備(提案事業/温泉施設、物産館)、地域生活基盤整備(基幹事業/公園、道路、緑地、緑化施設、情報板・サイン整備)、ふれあい公園整備(関連事業/県営中山間総合整備事業・親水公園)</p>
<p>その他</p> <p>○今までの住民との協議検討状況            新マリノベーション拠点交流促進総合整備計画については、「ふれあい協議会」(委員28名)を設置し、地元住民及び漁協等と逐次協議を進めてきた。            農村公園(親水公園)については、「亀ヶ池環境対策委員会」(委員32名)を設置し、地元住民や大学教授らと協議検討し、事業を進めている。            温泉整備については、「亀ヶ池温泉活用計画策定委員会」(委員18名)を設置し、地元住民や各団体長、議会らと協議し活用計画を策定。今年度からは「伊方亀ヶ池温泉まちづくり検討委員会」に名称を改め、温泉を活かしたまちづくり協議を進めている。</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動            当地域には、宇和海に面した田之浦漁港があり、段々畑には柑橘類という、農漁村集落である。温泉温泉施設と連携し、都市住民との交流を図り、ふれあい、保養、余暇の場を提供し、地域の活性化を行う。地域住民が一体となったまちづくりを進めるため、まちづくり活動組織の育成に努め、自主的なまちづくり活動を促す。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について            交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、行政と地域住民が協働して、事業成果についての評価や事業の進め方の改善等を行うための協議検討会やアンケート等を実施する。その結果については、随時、町民に情報公開を行う。            また、前述の「伊方亀ヶ池温泉まちづくり検討委員会」と連携を密にし、まちづくり活動を推し進める。</p>	

